



2022年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年2月14日

上場会社名 株式会社アイスタイル 上場取引所 東
 コード番号 3660 URL <https://www.istyle.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉松 徹郎
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 菅原 敬 (TEL) 03(6161)3660
 四半期報告書提出予定日 2022年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満四捨五入)

1. 2022年6月期第2四半期の連結業績(2021年7月1日~2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年6月期第2四半期	17,109	9.6	△633	—	△693	—	△603	—
2021年6月期第2四半期	15,615	△2.0	△544	—	△602	—	△777	—

(注) 包括利益 2022年6月期第2四半期 △384百万円(—%) 2021年6月期第2四半期 △727百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年6月期第2四半期	△8.44	—
2021年6月期第2四半期	△11.67	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年6月期第2四半期	23,450	7,740	32.1
2021年6月期	22,235	8,109	35.5

(参考) 自己資本 2022年6月期第2四半期 7,534百万円 2021年6月期 7,902百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年6月期	—	0.00			
2022年6月期(予想)			—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年6月期の連結業績予想(2021年7月1日~2022年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	39,200	26.7	500	—	400	—	300	△20.9	4.20

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年6月期2Q	74,146,800株	2021年6月期	74,146,800株
② 期末自己株式数	2022年6月期2Q	2,693,567株	2021年6月期	2,693,567株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年6月期2Q	71,453,233株	2021年6月期2Q	66,578,519株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・当社は2022年2月15日にアナリスト及び機関投資家向けの決算説明会を開催する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

化粧品業界におきましては、「新型コロナウイルス (COVID-19)」（以下、「新型コロナウイルス」という。）の影響により、消費者の購買意欲の低下や、外出自粛による化粧をする機会の減少、インバウンド需要の蒸発などにより、依然として景況感が厳しい状況にあります。各化粧品メーカーはこの状況を受け、広告媒体のデジタルシフト、EC販売の強化などDX^{*1}を推進していく傾向が強く、これによりプラットフォームとしてメディア・EC・店舗を一体化したサービスを提供する当社グループが享受できる事業成長の機会は、増加するものと見込んでおります。

当社グループは、収益事業であるOn Platform事業およびBeauty Service事業におけるECの成長、ならびに下期から新型コロナウイルスの影響が徐々に収束し国内・海外店舗が復調する前提で計画を策定しており、増収および営業利益の黒字転換を目指しております。

当第2四半期連結累計期間における業績は以下の通りです。

売上高におきましては、2021年7月に発出された緊急事態宣言が10月に解除されたことに伴う人流の戻りと化粧品需要の回復を受けて、Beauty Service事業における「@cosme BEAUTY DAY (アットコスメビューティーデー)」（以下、「ECのスペシャルイベント」という。）の売上拡大を含むECの成長と店舗の増収があったことに加え、On Platform事業の広告・ソリューションの増収等が寄与し、過去最高となりました。

営業利益におきましては、賞与引当金繰入の増加や、On Platform事業におけるソフトウェア償却費の増加等により前年同期比で減少したものの、社内計画通りに進捗しました。

その他、8月に子会社化した韓国のGlowdayz, Inc.の株式取得に際して発生しました段階取得に係る差益114百万円を計上し特別利益は128百万円となった一方、海外店舗の収益性の低下に伴う減損123百万円を計上したこと等により特別損失は182百万円となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は以下の通りとなりました。

売上高	17,109百万円 (前年同期 15,615百万円 / 前年同期比 9.6%増)
営業利益	△633百万円 (前年同期 △544百万円)
経常利益	△693百万円 (前年同期 △602百万円)
税金等調整前四半期純利益	△747百万円 (前年同期 △698百万円)
親会社株主に帰属する四半期純利益	△603百万円 (前年同期 △777百万円)

※1 デジタルトランスフォーメーションの略。企業がビジネス環境の激しい変化に対応しデータとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。

①On Platform事業

当セグメントには、当社が運営するコスメ・美容の総合サイト「@cosme (アットコスメ)」を基盤とした各種サービス (BtoB、BtoC) が属しております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、新型コロナウイルスの影響により引き続きクライアントの予算が保守的ではありますが、マーケティングサービス「ブランドオフィシャル」を用いた分析・プロモーション施策・販売まで一貫したマーケティング提案等が功を奏し、前年同期比で増収となりました。

営業利益におきましては、ソフトウェア償却費、賞与引当金繰入および「@cosme」のユーザーアクション活性化のための費用の増加により一時的に利益率が低下となりましたが、当第2四半期連結累計期間におきましては社内計画通りの進捗となりました。なお、ユーザーアクション活性化に向けた施策が奏功し、MAU (月間アクティブユーザー数)、年間クチコミ投稿数およびアプリダウンロード数は、過去最高水準を記録いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は以下の通りとなりました。

売上高	3,704百万円 (前年同期 3,418百万円 / 前年同期比 8.4%増)
営業利益	382百万円 (前年同期 671百万円 / 前年同期比 43.1%減)

②Beauty Service事業

当セグメントには、化粧品ECサイト「@cosme SHOPPING（アットコスメショッピング）」の運営、化粧品専門店「@cosme STORE（アットコスメストア）」や大型旗艦店の運営等、国内における小売業を中心としたサービスが属しております。

売上高におきまして、ECでは、依然として続く新型コロナウイルスの感染防止を目的とした外出自粛による需要増、加えてECのスペシャルイベントにて過去最高の流通総額を記録したことなどにより、前年同期比で26.3%伸長いたしました。店舗では、2021年10月に緊急事態宣言が解除されたこと等により、大型旗艦店で2020年1月のオープン以来過去最高の売上高を達成したことなどにより、前年同期比で6.5%増収いたしました。その結果、Beauty Service事業全体では、前年同期比14.5%増収いたしました。

営業利益におきましては、ECのスペシャルイベント開催に伴うプロモーション費用を2020年開催時と同程度（2020年2.9億円、2021年2.4億円）計上したものの、ECの躍進や、店舗の増収により、前年同期比で約2億円の赤字幅縮小となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は以下の通りとなりました。

売上高	10,557百万円（前年同期 9,220百万円 / 前年同期比 14.5%増）
営業利益	△111百万円（前年同期 △321百万円）

③Global事業

当セグメントには、日本国外で展開するEC・卸売、店舗、メディア等のサービスが属しております。

売上高におきましては、2021年8月に子会社化したGlowdayz, Inc.（韓国）の損益計算書を当第2四半期から連結したことにより、前年同期比で増収となりました。

香港の店舗におきましては、現地における新型コロナウイルスの影響が依然として続いており、2021年7月から同年8月に2店舗を閉店しましたが、既存4店舗が増収したことにより売上高は前年同水準での着地となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は以下の通りとなりました。

売上高	2,385百万円（前年同期 2,417百万円 / 前年同期比 1.3%減）
営業利益	△71百万円（前年同期 △66百万円）

④その他事業

当セグメントには、美容部員を派遣する人材派遣事業と、創業間もない企業も含め幅広い成長ステージの企業に投資する投資育成事業が属しております。

人材派遣事業におきましては、新型コロナウイルスの影響を受け減収となりましたが、黒字を維持した着地となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は以下の通りとなりました。

売上高	463百万円（前年同期 560百万円 / 前年同期比 17.2%減）
営業利益	15百万円（前年同期 △38百万円）

(2) 財政状態に関する説明

① 資産の部

当第2四半期連結会計期間末における資産の額は、前連結会計年度末に比べ1,215百万円増加し、23,450百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末における流動資産の額は、前連結会計年度末に比べ694百万円増加し、14,118百万円となりました。これは主に、現金及び預金が563百万円減少したものの、受取手形、売掛金及び契約資産(前連結会計年度末は受取手形及び売掛金)が1,185百万円、商品が166百万円増加したこと等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における固定資産の額は、前連結会計年度末に比べ521百万円増加し、9,332百万円となりました。これは主に、有形固定資産が418百万円減少したものの、のれんが1,077百万円増加したこと等によるものであります。

② 負債の部

当第2四半期連結会計期間末における負債の額は、前連結会計年度末に比べ1,583百万円増加し、15,710百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末における流動負債の額は、前連結会計年度末に比べ7,862百万円増加し、13,744百万円となりました。これは主に、短期借入金が1,000百万円、1年内返済予定の長期借入金が5,710百万円、賞与引当金が215百万円増加したこと等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における固定負債の額は、前連結会計年度末に比べ6,279百万円減少し、1,966百万円となりました。これは主に、長期借入金が6,276百万円減少したこと等によるものであります。

③ 純資産の部

当第2四半期連結会計期間末における純資産の額は、前連結会計年度末に比べ369百万円減少し、7,740百万円となりました。

これは主に、利益剰余金が572百万円減少したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年8月16日の決算短信で公表しました当連結会計年度の業績予想は、新型コロナウイルスの影響が第2四半期中に収束することで同期間から業績が改善することを前提としております。新型コロナウイルスの収束状況について、期初計画の前提と実態が異なっておりますが、上半期は社内計画通りの推移であることや、感染状況と経済動向の相関性が以前とは異なり現時点において感染拡大の影響を精査できる段階でないことを鑑み、通期連結業績予想を据え置きとしております。今後、業績予想の修正が必要となった際には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,205	6,643
受取手形及び売掛金	2,707	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	3,891
商品	2,146	2,312
営業投資有価証券	893	918
その他	540	425
貸倒引当金	△2	△7
投資損失引当金	△65	△65
流動資産合計	13,424	14,118
固定資産		
有形固定資産	1,932	1,515
無形固定資産		
のれん	384	1,461
ソフトウェア	2,663	2,564
その他	282	294
無形固定資産合計	3,329	4,319
投資その他の資産		
投資有価証券	1,338	929
敷金及び保証金	1,845	1,832
その他	367	766
貸倒引当金	—	△28
投資その他の資産合計	3,550	3,499
固定資産合計	8,811	9,332
資産合計	22,235	23,450

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2021年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,194	1,756
短期借入金	1,500	2,500
1年内返済予定の長期借入金	965	6,676
未払法人税等	95	256
賞与引当金	94	309
事業構造改善引当金	3	1
関係会社整理損失引当金	45	31
その他	1,985	2,215
流動負債合計	5,881	13,744
固定負債		
長期借入金	8,156	1,880
その他	89	86
固定負債合計	8,245	1,966
負債合計	14,126	15,710
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,756	4,756
資本剰余金	3,937	3,937
利益剰余金	△443	△1,014
自己株式	△280	△280
株主資本合計	7,970	7,398
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△59	△47
為替換算調整勘定	△8	183
その他の包括利益累計額合計	△67	136
新株予約権	59	45
非支配株主持分	148	161
純資産合計	8,109	7,740
負債純資産合計	22,235	23,450

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)
売上高	15,615	17,109
売上原価	8,468	9,282
売上総利益	7,147	7,827
販売費及び一般管理費	7,691	8,459
営業損失(△)	△544	△633
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	3	3
助成金収入	73	16
その他	44	16
営業外収益合計	121	36
営業外費用		
支払利息	34	27
為替差損	101	49
投資事業組合運用損	2	3
持分法による投資損失	25	7
その他	17	10
営業外費用合計	179	96
経常損失(△)	△602	△693
特別利益		
新株予約権戻入益	30	14
段階取得に係る差益	—	114
特別利益合計	30	128
特別損失		
減損損失	9	182
賃貸借契約解約損	50	—
関係会社整理損失引当金繰入額	68	—
特別損失合計	127	182
税金等調整前四半期純損失(△)	△698	△747
法人税等	75	△152
四半期純損失(△)	△773	△594
非支配株主に帰属する四半期純利益	4	9
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△777	△603

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)
四半期純損失(△)	△773	△594
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	13
為替換算調整勘定	45	197
その他の包括利益合計	46	210
四半期包括利益	△727	△384
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△731	△399
非支配株主に係る四半期包括利益	4	15

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、顧客への財又はサービスの提供における当社グループの役割が代理人に該当する取引について、従来顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、当該対価の総額から第三者に対する支払額を差し引いた純額で収益を認識する方法に変更しております。また、広告に係る製作費について、従来制作物の納品時に一時点で収益を認識しておりましたが、広告の掲載にあわせて一定期間にわたって計上する方法に変更しております。さらに、他社が運営するカスタマー・ロイヤリティ・プログラムにかかるポイント負担金について、従来は販売費及び一般管理費として計上しておりましたが、ポイント負担金を差し引いた金額で収益認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は116百万円減少し、売上原価は17百万円減少し、販売費及び一般管理費は127百万円減少し、営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失はそれぞれ28百万円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は31百万円増加しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染拡大に伴う会計上の見積りについて)

香港店舗において、2022年2月の春節にあわせて入境制限の大幅な緩和を想定しておりましたが、香港内におけるオミクロン株の発生により、入境制限の大幅な緩和が見込めないため、インバウンド需要は回復しないと仮定して計画を策定しております。この結果、香港の店舗において、投資額の一部が回収できないため減損損失を計上しております。

なお、国内の店舗に関しては前連結会計年度の決算短信の(追加情報)に記載した新型コロナウイルスの今後の広がり方や収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント					調整額 (注) 1 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2 (百万円)
	On Platform 事業 (百万円)	Beauty Service事業 (百万円)	Global事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	合計 (百万円)		
売上高							
外部顧客への売上高	3,418	9,220	2,417	560	15,615	-	15,615
セグメント間の内部 売上高又は振替高	118	8	40	2	168	△168	-
計	3,536	9,228	2,457	562	15,783	△168	15,615
セグメント利益又は損失 (△)	671	△321	△66	△38	246	△790	△544

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△790百万円は、セグメント間取引消去3百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△793百万円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

各報告セグメントに配分していない全社資産において、一部の資産の使用を停止したため、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において9百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

	報告セグメント					調整額 (注) 1 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2 (百万円)
	On Platform 事業 (百万円)	Beauty Service 事業 (百万円)	Global 事業 (百万円)	その他 事業 (百万円)	合計 (百万円)		
売上高							
一時点で移転される財	—	10,557	2,100	3	12,660	—	12,660
一定の期間にわたり 移転される財	3,704	—	284	460	4,449	—	4,449
顧客との契約から生じる収益	3,704	10,557	2,385	463	17,109	—	17,109
外部顧客への売上高	3,704	10,557	2,385	463	17,109	—	17,109
セグメント間の内部 売上高又は振替高	201	5	6	7	219	△219	—
計	3,905	10,562	2,391	470	17,328	△219	17,109
セグメント利益又は損失 (△)	382	△111	△71	15	215	△848	△633

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△848百万円は、セグメント間取引消去2百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△849百万円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「Global事業」において、当初想定していた収益が見込めないため、一部の店舗及び資産グループについて減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において123百万円であります。

各報告セグメントに配分していない全社資産において、一部の資産の使用を停止したため、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において59百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

第1四半期連結会計期間において、Glowdayz, Inc. の株式を追加取得し連結子会社化したことにより、「Global事業」セグメントにおいてのれんが1,092百万円増加しております。なお、のれんは、当第2四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。